

2009年度協約改訂交渉スタート！

本部は8月20日、2009年度協約改訂に向け第1回団体交渉を行いました。

- 基本協約締結拒否は不当労働行為である直ちに締結せよ！
- 加藤誠二さんの懲戒解雇を早期に撤回し職場復帰をさせろ！
- リニア中央新幹線の具体的計画について労働組合と協議せよ！
- 年間20日の年休取得ができる適正要員を配置せよ！
- 一方的な休日出勤解消のため必要な要員を早急に配置せよ！
- 駅還流は本人希望とし期間は最長3年とすること！
- 専任社員の雇用条件・労働条件を改善せよ！

【J R 東海労要求主旨】

景気低迷の影響により、輸送状況も回復を見せない状況のなか、ますます労使の関係が重要になる。本年度の賃上げはベアゼロの厳しい回答であった。厳しい局面ではあるが、日々安全・安定輸送のために、日夜を問わず額に汗して懸命に努力している社員に伝えるために、一刻も早い正常な労使関係の構築と合わせ、安全問題、専任社員の雇用条件をはじめとした労働条件に関して102項目を要求する。

申し入れている内容は、「労使関係」部分を除けば、今職場で発生している様々な問題や、日夜に亘って「安全・安定輸送」のために奮闘している社員の不平・不満そして切実な要求を代表したものである。職場で鬱積している多くの問題は、現実的に社員を苦しめ、会社の将来を担う若い優秀な社員が自殺をしたり、精神的な病気に陥ったり、一方的な職種換えや配転によって退職を余儀なくされている。限られた時間ではあるが、真摯な議論により問題が解決されるように冒頭に強く要請するものである。

【会社の基本的な姿勢】(要旨)

内閣府の8月の月例報告では、景気は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きが見られるとされている。一方、生産活動が極めて低い水準にあることなどから、雇用情勢の一層の悪化が懸念され、世界的な金融危機の影響で景気を下押しするリスクが存在するとされている。この様な環境下で、当社の営業状況は、平成21年度第一四半期において、新幹線が対前年度比87%、在来優等列車が対前年度比85%となり、極めて厳しい状況にある。従って、今後は安全・安定輸送の確保を最優先し、質の高いサービスの提供を継続していく。業務全般に渡る低コスト化や効率的な業務遂行等を取り組み、経営体力を強化していく。この厳しい経営環境に踏まえ、すでに相当高い水準にある労働条件について、世間レベルとの乖離も検証しつつ、真摯な議論を行っていく考えである。

**社員に優しい会社、働きがいのある労働条件を実現しよう！
労働組合の垣根を越えて共に職場から闘おう！**

